

音モダチ・プロジェクト 被災地支援活動

2013/4/6-7

今回の音モダチプロジェクトは原発被害より避難されてきている富岡町、浪江町の方々がいらっしゃる仮設住宅へ訪問させて頂きました。震災から2年以上が経ち、それでも先の全く見えない現状の中で皆さん過ごされています。

初日は郡山市内にある富岡町の緑ヶ丘応急仮設住宅の集会場にて。こちらは昨年4月にコーラスグループ歌・謡・隊（うたうたいたい）のメンバーとともに伺わせて頂いたところです。演奏の前に数日前の富岡町の様子を写真に撮ってきて下さったものを皆さんと一緒に拝見させて頂きました。そこには津波の被害を受けてそのままの状態の手つかずになっているところもありました。とても2年が経ったとは思えない様子でした。人の気配のない町・・・皆さん懐かしそうにご覧になっていました。いつになったら戻る事が出来るのでしょうか。誰もいない町でもちゃんと桜が咲いていました。「富岡わがまち」という富岡町町民歌を皆さんと一緒に歌いました。その歌詞には「新しい科学の技術（わざ）にふるさとの未来を開く」という部分があります。皆さんの心中を思うと本当に心苦しくなってしまいます。



富岡町 緑ヶ丘仮設の皆さん



恵向公園内に作られている
ログハウスのような仮設住宅



浪江町 恵向仮設、虹の家の皆さん



富岡町 富田仮設の皆さん

二日目の午前には浪江町の方々がいらっしゃる恵向仮設にあるグループホーム虹の家さんにて、グループホームにお住まいの方々と仮設に住まれている皆さんへ音楽をお届けさせていただきました。こちらの仮設の建物は珍しい木造で、ログハウス協会が建てられた建物だそうです。とても温かい感じを受けました。グループホームはもともと浪江町にあったところ、震災から八か月後にこの地でまた再開できたそうです。居住されていた皆さんの避難生活の日々はとても大変だったことでしょう。そして場所は違っていてもホームが再開でき、そして馴染みの職員の方々と過ごせることはとても大きな事だったのではないのでしょうか。歌を聴かれて、嬉しい、と泣いていらっしゃる方もおられました。

午後は富岡町の方々の富田仮設へ伺わせていただきました。直近に決まった公演にも関わらず沢山お集まりくださいました。無名でしかも初めて訪れる私たちの演奏を聴きにいらしてくださり、涙される。こんなに嬉しいことはないです。たくさん笑い、泣き、歌い、ひとときを共有させていただきました。帰りは皆さん笑顔でお宅に戻られて行かれます。

メッセージはメロディーに乗せて届けると、より心に響くのではないのでしょうか。愛は人を動かす事のできるもの。そして、音楽は愛、なのです。やはり音楽の力って大きいのだと感じた2日間でした。2年が経っても不安は募るばかりの皆さんにとって、心を解放できる時間は本当に必要なのだと思います。

<セットリスト>

4/6 緑ヶ丘仮設

銀色の道
高原列車は行く
笑顔のうた
春の小川
山の人気者
ふくしまの四季は母
見えないもの（放射能）
ほほ笑みの音符にのせて
生きているその輝き
さくら咲きさくら散る
富岡わがまち

4/7 虹の家

どこかで春が
花
高原列車は行く
どじょっこふなっこ
七つの子
春の小川
銀色の道
笑顔のうた
山の人気者
ふくしまの四季は母
見えないもの（放射能）
さくら咲きさくら散る

4/7 富田仮設

銀色の道
高原列車は行く
笑顔の歌
春の小川
若者たち
山の人気者
見えないもの（放射能）
ほほ笑みの音符にのせて
富岡わがまち
さくら咲きさくら散る
Last waltz



立ち寄った三春の滝桜。まだつぼみでしたが
この木に会えただけでもよかったです